

成績不振者の基準について
(平成30年度5・6年次適用)

平成27年	2月18日	教授会承認
平成27年	4月1日	施行
平成28年	10月26日	改正
平成29年	4月1日	施行

以下に該当する者を成績不振者とし、進級判定・卒業認定制度2の⑥の(3), 及び3の②の(3)に基づき、教授会において総合的に審議する対象として取り扱う。

学年	総ユニット	欠点科目ユニット
1	59	6以上
2	62	10以上
3	52	8以上
4	54	6以上
5	57	6以上
6	74	7以上

なお、下記科目の欠点及び条件が満たされない場合は、欠点科目ユニット数にかかわらず、成績不振者として審議対象とする。

記

学年	科目及び条件
1	「運動器」
4	共用試験（「CBT」、「OSCE」）
6	「OSCE」 「学力統一試験」 ※「一般問題」「臨床問題」「必修問題」のいずれかが、60点未満

以 上

5・6年次学力統一試験の問題数・配点・削除問題基準について

平成27年	2月18日	教授会承認
平成27年	4月1日	施行
平成29年	3月22日	改正
平成29年	4月1日	施行
平成29年10月25日		改正
平成30年	4月1日	施行

1 問題数，配点，前・後期配分，削除問題基準を以下のとおりとする。

なお，問題の削除については，6年次の成績に基づいて行う。

① 問題数及び配点（前・後期各400問，合計800問）

(1) 必修問題 100問

（一般問題 50問 各1点，臨床問題 50問 各3点）

(2) 医学総論 140問

（一般問題 60問 各1点，臨床問題 50問 各1点，

長文問題 30問 各1点）

(3) 医学各論 160問

（一般問題 40問 各1点，臨床問題 120問 各1点）

② 前・後期得点配分

前期有効得点数20%＋後期総有効得点数80%＝総有効得点数

③ 削除問題基準

(1) 医学総論（B・E），医学各論（C・F）

ア 正答率10%以下

イ 識別指数0（ゼロ）または－（マイナス）

(2) 必修問題（A・D）

ア 正答率10%以下

イ 識別指数－（マイナス）

ウ 識別指数0（ゼロ）かつ正答率90%未満

以 上

1 学力統一試験の成績評価について

平成30年度5年次「学力統一試験」の成績は、「前期学力統一試験」（平成30年7月実施）と「後期学力統一試験」（平成30年11月実施）の結果によって総合評価する。

両試験の配分比率は、「前期学力統一試験」20%、「後期学力統一試験」80%とする。

① 目的

- (1) 国家試験レベルの試験問題を解き、自己の知識量や学力到達度を把握することによって、6年次の学修を効果的なものとする。
- (2) 成績上位者に対する「6年次における学修上の配慮」（平成28年度から実施）の対象者を選抜する際の判断基準とする。

② 成績の取り扱い

5年次生の総合得点率の平均値を m_5 、6年次生の総合得点率の平均値を m_6 としたとき、5年次の各学生の修正した総合得点率を次で定める：

$$\begin{aligned} & \text{(5年次の各学生の修正した総合得点率)} \\ & = \text{(5年次の各学生の修正前の総合得点率)} \times m_6 \div m_5 \end{aligned}$$

の小数第2位を四捨五入した値

尚、修正した総合得点率が100%を超えた場合は100%とする。

2 6年次における学修上の配慮について

- ① 対象者 前期・後期学力統一試験における総合成績上位者5名
- ② 内容 6年次前期に行われる「自由選択学習（5週）」と「選択臨床実習（8週）」の期間を合わせた合計13週（約3か月）を用いて、学生の希望に合わせた自由度の高い学修機会を提供する。その目的、趣旨は自由選択学習に準じることとし、特定診療科での臨床実習のみならず、基礎医学分野・社会医学分野での研究従事や学外（海外含む）での病院実習などの機会として活用されることを期待している。
- ③ 評価 自由選択学習の評価方法に準じます。（担当教員による評価50%、履修報告書の内容50%）評価結果に基づき、自由選択学習と選択臨床実習のユニットを付与する。

成績上位者に対するこのような特別の配慮を行うことは、トップランナー育成の姿勢を具現化したものであり、本学部の将来を担う「次世代の育成」に積極的に取り組んでいこうとする姿勢を表すものである。6年次生にも匹敵、あるいはそれを上回るような学力を備えた者に、自ら学び、知的探究心を満たす機会を与えることによって、知識面のみならず人格形成上においてもより高い効果が得られることを期待して実施するものである。